

国 語 科

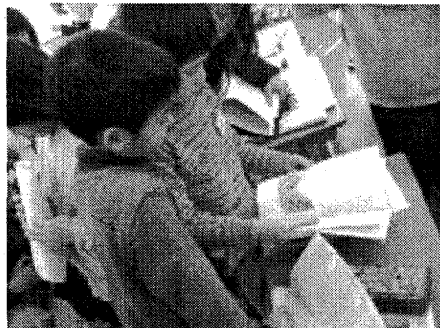
ことばを豊かに表現し、自ら学ぶ国語教室

～聴き合い活動を取り入れた、魅力あふれる単元の構想～

国語科では、子供が意欲を持って学び、友達と心を通じ合わせて言語活動に取り組んだり、教材の魅力を十分に感じ取ったりするような授業や単元を構想することを第一歩として研究を進めてきました。

教師が言語能力を意識して授業に臨み、聴き合い活動の中でそれを発揮できるように支援をすることで、子供たちにことばの豊かさがじっくりしみいってほしいと願っています。

(国語科主任 野谷 知秀)



1 研究の背景と研究主題の設定

(1) 国語教育への要請

国語の授業で学習したことばの力が、実生活や将来の実社会で生きて働くものになっているかどうか言語の教科として大切である。現在の青少年の言語生活を見ると、読書に親しむ生活が貧弱であるために語彙力が不足し、論理的に意見を述べる力も不十分といえる。ことばを通して考える力や感性、情緒についても乏しいものとなっている。また、身近な友達とのコミュニケーションは得意であるが、改まった場でのコミュニケーションは、あまり得意ではない様子が見られる。

また、PISA 型読解力で挙げられている「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」なども今日の大きな課題といえる。

(2) 国語教師の願い

時代の状況がどんなに変わろうとも子供たちには、確かなことばの力を身に付け、自ら豊かな言語生活を創り上げてほしい。なぜなら、子供たちが大人になり実社会や実生活で自立して生きていくためには、ことばの力は大切な生きる力となるからである。

人はよりよいコミュニケーションの中で、他者と出会い、安心感を感じ、伝達の喜びを知り育っていく。小学校では、その基礎・基本を教え、言語体験させ、実際に活用させていく。ことばの力は、ことばを通して人とかかわることによって学んでいくのである。友達と一緒に、ことばを学び、ことばと学び、ことばに学ぶことができれば、学んだことが一人一人に還元、国語の授業で学んだ喜びを感じていくことになるであろう。

(3) 育てたい子供像と研究主題の設定

以上のようなことと全体提案「次代を担う子供たちの」の将来像の視点、子供の実態などから、国語科としては育てたい子供像を以下のように考えた。

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ ことばを豊かに表現し、友達と活発に交流することで、自ら学びを広げたり友達と共に学ぶ楽しさを感じたりしながら、国語の学習に取り組んでいる子供
(集団の中で) |
| ○ ことばに対する関心を持ち、言語活動に精一杯取り組んで自分の考えを表現しようとする子供。
(個人として) |

このような、子供を育てるためには、自分のことばの力を存分に発揮する場を設定することが大切である。友達と学び合いながら、自信を持って表現したり、豊かに表現したりしている姿こそ、ことばを通して心と心を通じ合った瞬間である。言語活動を通して友達と語り合ったり、作

品をつくり上げたりする中で、子供が、「おもしろい、気付いた、分かった、美しい」などと思う経験を国語の授業で数多く積むことが国語科で目指す子供を育ていくことにつながるのである。

教師が子供とともにこうした授業や教室を作ることにより、子供たちも、進んで自らの課題を意識して、学びを深めていくであろう。そこで、研究主題を「ことばを豊かに表現し、自ら学ぶ国語教室」と設定し、その実現に向けて具体的に取り組んでいくこととする。

2 副主題の設定と3年間の研究の方向

1年次は、全体提案にあるように「互いに高め合い響き合う授業づくり」を目指し、授業でどのような具体的な支援が考えられるかを研究する。互いに高め合い響き合うためには、友達とかかわりながら学ぶことを通して、聴き手が心を傾けて聴くことが何よりも大切である。友達の考えをしっかりと聴いたり、聴いたことをもとにさらに考えたりし、聴き合うことの質を高めれば、より高い学び合いができるであろう。

そこで、副主題を「聴き合い活動を取り入れた、魅力あふれる単元の構想」と設定し、聴き合い活動を生かして言語活動を充実したものにしていくための教師の支援を中心に研究を進めた。読み取ったことや読んで考えたことを聴き合ったり、聴き合ったことをもとに書いたりする活動の中で、子供の考えを深めていく。

2年次には、1年次の成果と課題を生かしながら、子供が共に学び合い、学習していくような授業を特に「書くこと」に焦点をあて実践していく。

3年次には、2年間の成果と課題に目を向けながら、実社会と実生活につながっていける創造的で楽しい国語の授業を提案していきたい。

また3年間の研究を通して、生きて働くことばの力を身に付ける魅力あふれる教材についても開発し、単元を構想していく。

3 研究の内容

(1) 聴き合う活動の工夫と教師の支援

これまで伝え合う活動では、教師が観点を与えたり、子供たちで学び合うような必然性のある課題を設定することで、意味あるものとすることができた。しかしながら、伝え合うべき課題が、子供の実態と合わなかったり、双方向の伝え合いが連続しなかったり、相手に心を通じ合わせることができなかったことなどがあつた。

そこでまず第一に、互いに高め合い響き合うようにするためには、相手の心に耳を傾けて聴くことのよさに気付かせることが大切である。教師の支援によって、「聴き合うことが楽しい」「とても役立つ」という実感を授業の場面で数多く出させることが大切である。

さらに、こうした聴き合い活動を通して、共に学んでいる学級の仲間や、学習を進めている自分自身の変容に気付くようにしていきたい。

(事前)

教師が話し合うべき課題について子供の思いを生かして紹介したり、教師の考えを提示したりして、子供たちの学習意欲を強く持たせることが大切である。また、学習活動において、友達の考えを生かしてまとめなければならない展開を工夫することで、聴き合う活動の必然性を高めていく。

- ・教材文を読んで持った問いを、解決したいと思わせる発問や課題にして提示する。
- ・友達の意見を聴き合うことで深まるような単元構成にする。
- ・多様な考えが予想される課題づくりをする。

(事中)

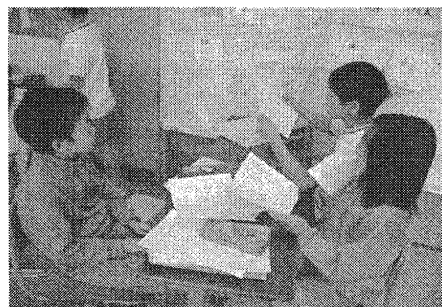
聴き合う活動の内容はもちろんのこと、子供たちが聞き合う活動の目的や方法をしっかり理解できていることが大切である。それらを理解できるように、掲示資料を作ったり、聴き合いのモデルを見せたりなど具体的に支援を行っていく。活動の途中でも、聴き合い活動の中身を深めるための教師の発問や資料提示を行っていく。

- ・課題や発達段階に応じて、同質、異質、異年齢、ペア、4人組などのグループ構成。
- ・教師の明確な指示、ゆさぶる適切な資料の提示する。
- ・グループの聴き合いをみんなで見合い、学習のモデルとする。

- ・話し合いの目的や手順を明確にする。
- ・話し合いの目的に合わせて、多様な意見を聴き合うのか、課題の内容を深めるのか、グループでの意見をまとめるのかをはっきりさせる。
- ・友達の意見を合わせて発表したりするなど、発表方法の工夫する。

2年 「語りの会を開こう」

「お世話になった5年生に語りの会を開くこと」をねらいとしたこの単元では、「ねずみのすもう」「へっこきよめさ」などの民話を通して語りの練習をする。自分の語りが上手であるかどうか、もっとよくするにはどうしたらよいか、グループごとに役割を決め、聞き役の子供が具体的なアドバイスをしたり、語りのよさを認めたりするようにする。授業では、聴いた結果コメントする場面を全員で見合うことにより、学習のモデルとして提示し、それを生かして、聴き合うことができた。



終末では、自分なりに読み取ったことを「語り」として表現する活動を5年生に認めてもらい、充実感を持って単元を終えることができた。

【授業後の感想】

- ・聞く役目だったから、友達のよさについてたくさん見つけて、話し合えたよ。
- ・前ははどう読んだらよいか迷っていたけれど友達の語りを聞いたり話し合ったら、読み方が分かった。
- ・今まで語りをやってきて、できなかったことがいっぱいあったけど、お家の人からコメントをもらったり、お友達が「こういうところがよかったよ。」と言ってくれたりしたから、上手に語れるようになったよ。

(事後)

聴き合う活動の内容と、聴き合い方の両面において、子供のよさを具体的に賞賛していく。聴き合った結果、課題について考えが深まったり友達と聴き合うよさを実感したりする経験を積み重ねていく。多様な形態での聴き合い活動を取り入れることにより、聴き手や話し手の役割を自覚できるようにしていく。また、司会する力についても随時育てていく。

(2) 生きて働くことばの力をつける魅力あふれる単元の構想

ア 育てたい言語能力の明確化

ことばの力を豊かに表現するには、教師が確かなことばの力を身に付けさせることが大切である。そのために、教師が1単位時間の目標を具体化し、1単位時間や単元の中で段階を踏んで身に付くようにしていく。教師が、単元のねらいやどのような言語能力をつける時間かを毎時間しっかり意識していくことが、重要である。

6年「未来予測をしよう」

目標 「未来を予想し、発表しよう」

- ・「相手に分かりやすい構成を考えよう」【意見文の構成】
- ・「未来予測の根拠を選ぼう」【主張を強める方法】
- ・「聞き手を納得させるような表現をしよう」【効果的な言語表現】

振り返り 「未来発表会で分かったことをまとめよう。」

単元のねらいと言語活動の特徴をしっかりとおさえ、ねらいに応じた活動をする中で、一つ一つ言語能力を身に付けさせていく。

上記の例は、「未来予測をしよう～百年後の未来」という単元で、自分で百年後を予測し、意見文を書き、発表するというものである。意見文を書く際に、身に付けてほしい教師のねらいをはっきりとさせ、毎時間の学習の中で、【意見文の構成】のように重点をあてて学習を展開していく。自分の意見文を書く上で、説明文教材の論旨の展開を生かしたり、事実と理由の区別の仕方を参考にしたりしながらねらいに迫っていく。

このような積み重ねにより、学習のゴールである未来発表会では、意見文の構成を生かして発表したり、根拠を明確にしたり、相手を納得させるような表現を取り入れたりすることがで

イ 魅力あふれる教材、単元の開発と改善

＜魅力あふれる教材とは＞

- 3年 「わすれられないおくりものブック」を作ろう

主教材の前に起こった作品の出来事を読むことで、主教材だけでは読み取れない二人の結びつきをより深くとらえることができた。それぞれが読み取った二人の関係について根拠を示しながら伝え合い、友達の考えに共感したり、自分とは異なるとらえ方をしている考えに触れたりしながら、主教材に出てくるアナグマとモグラは「心が通じ合っている友達だ。」「おたがいに助け合っている友達だ。」など二人の深いつながりに気付くことができた。

「世界に一つだけの花」の歌詞をテキストとして提示する。何気なく歌っていた歌詞の中に秘密を見つける。「なぜバケツの中誇らしげにしゃんと胸を張っているのか」「世界に一つだけの花とは、何を表現しているのか」を全体での聴き合い活動で深めていく。読みを交流する中で友達の納得する考えを聴き、それを生かしてストーリーを自分のことばで解説する。詩の持つ象徴性から、自分の読みを短くまとめ、「世界で一人だけの自分を大切に～自立～」などと表現した。歌詞を読むおもしろさに興味を持つとともに、既習の比喩、擬人法、対句などの知識も活用することができた。

このお話には成長していく話だ
と思ふ
このお話は世界で自分は一人
しかない自分自分の力で
かべをぬぐこえていく、習かする
ということを保えるお話だと思ふ
自分一人で生きていく、つまり自立
していくことを伝えるための話だと思ふ
この社会のつらさ、自分の力を足した三
と自分だけの力で生きていくこと。

今後は、子供たちが自ら学び合うような授業作りのための、具体的な手立てを研究していきたい。